

国体選手選考基準（第76回三重国体）

<選手選考対象者>

国体選手選考の対象者は「兼予選会」に参加したものとす。したがって予選会に出場していないものは 選考の対象外である。

<選手選考にあたっての方針>

- (1) 下記の選考基準に基づいて選考する。
- (2) 国体で得点できる可能性を総合的に判断し選手を選考する。
- (3) エントリーは出場枠をすべて満たす。
- (4) 成年少年共通リレーは、できるだけエントリーをする。その場合選考基準に沿わない場合もある。
- (5) 300m、300mH、3000mWは、他の種目とは別に選考基準を定める。

<選考基準>

◇成年

1. 日本選手権で入賞したもの（複数の場合は上位者）
2. 「県選手権」で『標準記録A』を突破して優勝したもの
3. 『標準記録A』を突破しているもので、「県選手権」で優勝したもの
4. 『標準記録A』を突破しているものの中で、実績の高いもの
5. 「県選手権」で『標準記録B』を突破して優勝したもの
6. 『標準記録B』を突破しているもので、「県選手権」で優勝したもの
7. 「兼予選会」で優勝、もしくはシーズンベストが1位であり、本国体での入賞の可能性のあるもの
8. その他

◇少年

1. インターハイで入賞したもの（複数の場合は上位者）
2. 『標準記録A』を突破しているものの中で、実績の高いもの
3. 『標準記録B』を突破しているものの中で、実績の高いもの
4. シーズンベストが1位であり、「兼予選会」で優勝したもので、本国体で入賞の可能性のあるもの
(『標準記録A』が目安)
5. 「兼予選会」で優勝したもので、本国体で入賞の可能性のあるもの
※「兼予選会」では高校生最上位者を優勝と同等に扱う
6. その他

◇300m・300mH・3000mW

1. 「兼予選会」に出場し、本国体で入賞する可能性があるもの。
2. 200m・400m、400mH、5000mWでインターハイに出場し入賞したもの
3. 8月上旬の段階で全国ランキングから本国体で入賞の可能性が高いもの
4. 『標準記録A』を突破しているものの中で、実績の高いもの
5. 『標準記録B』を突破しているものの中で、実績の高いもの
6. その他

但し

- (1) 「兼予選会」の結果も選考の対象とする。
- (2) 成年選手の選考は、「兼予選会」複数の予選会を参考にする。
- (3) 少年A・少年共通はインターハイの結果を重視する。
- (4) 少年Bはインターハイ出場と全国中学出場へのプロセスを重視する。
- (5) 少年Bは全中の結果（入賞）を十分に踏まえる。
- (6) 類似する種目（100mと200mなど）の実績は当該種目の実績と区別する。
- (7) 日本代表選手として国際大会に出場する選手の選考は別途審議とする。

～補足～

1. 国体参加規程（抜粋）

- ・ 監督2名、選手29名（男子選手19名以内、女子選手19名以内）計31名以内で編成する。監督・選手の兼任は 1名とし、その場合は参加選手を30名とすることができる。